



倉庫の完成を喜び、記念写真に納まる町会の皆さん

地域に貢献するコミュニティ事業

車力地区の豊富町会（会長林嗣郎）は（財）自治総合センターが実施しているコミュニティ助成事業を活用して、同町内に倉庫を新設、草刈り機械10台を購入しました。

同町内は毎年夏に子供会や地域住民によるねぶた祭りを開催していますが、制作期間に約1ヶ月を要するため制作場所が無く悩んでいました。ねぶた祭りは夏の風物詩でもあり、町会の連帯感を深める大切な行事でもあることから、倉庫が完成したことに地域住民は喜んでいます。

また、同町会はコミュニティ意識を高めるため、定期的に子供達の遊び場や施設周辺の草刈り作業を行っています。草刈り機械を所有する人が少ないため、町会員が誰でも借りられるようにと購入しました。

※コミュニティ助成事業は宝くじの普及広報事業の一環として地域コミュニティの振興を目的に実施しています。

木造西中、最後の海岸清掃

今年度末で閉校となる木造西中学校全校生徒57人と保護者らは7月4日、出来島海水浴場で最後の清掃ボランティア活動を行いました。

同中学校は、平成14年3月に閉校となった旧出来島小学校が行っていた海岸清掃の活動を引き継ぎ、環境美化と後生にすばらしい環境を残していくため、毎年実施しています。

生徒たちは砂浜に散乱するペットボトル、空き缶、木材などを分別しながら拾い集めたり、埋まっているロープを掘り起こしていました。

生徒会長の吉田康祐君（3年）は「海に訪れた人たちが気持ちよく泳いだり、遊んでもらうため、今後も続けていけたらいいな」と汗をぬぐいながら話していました。



協力しながら砂浜のごみを拾い集める木造西中の生徒



「瑞宝単光章」受章の報告に訪れた奈良さん

春の褒章で「瑞宝単光章」を受賞

奈良猛さん（64歳）

長年にわたり家畜の飼養管理に従事してきた奈良猛さん（森田町下相野）が瑞宝単光章を受章し、7月9日福島市長へ受章の喜びを報告しました。

奈良さんは青森県の肉用牛振興のため、全国に通用する種雄牛の造成と和牛の能力向上を図りたいと県畜産試験場森田支場に41年間勤務し、種雄牛の飼養管理と凍結精液製造の技術を取得、本県の看板種雄牛になっている「第1花園」号の作出に大きく貢献してきました。

今後は「今まで培った知識や技術を生かして、後継者の育成に取り組んでいきたい」と抱負を語っていました。

屏風山畜産組合が特別賞を受賞

㈸日本草地畜産種子協会が主催する全国草地畜産コンクール放牧部門でつがる市屏風山畜産組合（組合長鳴海晴雄）が特別賞を受賞し、7月10日福島市長に受賞の喜びを報告しました。

同組合の牧場は、もともと土壌が砂質土で表層土が浅いため約90㍓もある砂丘地帯に約10cmの客土を行い、草生を回復させたことで200頭以上の牛の放牧が可能となりました。また、放牧地の中心部に追い込み柵と水飲み場を設置、牧区を放射線状に配置しているため集約管理型の牧場になっています。

鳴海組合長は「組合の取り組みが評価されて畜産農家も喜んでいきます。今後も組合員と協力しながら、肉用牛の主産地となれるよう取り組みます」と話し、福島市長は「受賞したことを契機に畜産農家が発展することを期待しています」と激励していました。



賞状を手にして福島市長と写真に納まる鳴海組合長（中央）



「恋するトマト」のエピソードを語る大地康雄さん

あおもり映画祭 「縄文メロンアワード2008」

地域の映画愛好者による手作りの第17回あおもり映画祭の「縄文メロンアワード2008」が7月12日、松の館で行われました。

同日の午前は、つがる市男女共同参画推進映画「象の背中」が上映され、映画ファン約320人が鑑賞しました。午後から上映された「恋するトマト」は、見合い相手にことごとく結婚を断られ絶望した中年男性が、フィリピンで出会った現地女性の農作業を手伝ううちに、農業への情熱を取り戻していくというストーリー。企画、脚本、制作総指揮、主演を務めた大地康雄さんが特別ゲストとして登場し、完成まで14年費やしたエピソードなどを語り、会場を盛り上げていました。

出来島海水浴場「海開き」

出来島海水浴場が7月19日に海開きをし、今シーズンの水難事故が起こらないようにと安全祈願祭を行いました。

安全祈願祭は福島市長や地域住民ら約60人が参列して行われ、水の犠牲者に対し黙祷を捧げた後、参列した代表者らが献花を行いました。

福島市長は「出来島海水浴場には毎年約8,500人の海水浴客が訪れています。水難事故が起こることなく多くの人たちでにぎわってほしい」とあいさつしました。祈願祭終了後には消防職員が監視員や地域住民を対象に水難救助講習会を開催し、参加者は真剣な面持ちで熱心に学んでいました。また同日、マグアビーチでも海開きが行われ、両海水浴場は8月24日まで海水浴を楽しむことができます。



安全祈願祭で献花を行う参列代表者



犯罪や非行のない明るい社会を

市民集会

犯罪や非行のない明るい社会を築こうと全国的に展開している第58回社会を明るくする運動市民集会が7月2日、松の館で行われました。市民集会には関係者や市民ら約400人が参加、瑞穂小学校4年生の代表者4人が誓いの言葉を発表し、昨年の社会を明るくする運動作文コンテストで入賞した車力中学校の成田茉優さん（1年）と柏中学校の小田川美幸さん（3年）が作文を披露しました。また、柏第1保育所の園児たちが鼓笛演奏を行い、集会を盛り上げてくれました。

AEDの操作方法を学ぶ

木造高校

木造高校は7月8日、1年生240人を対象に普通救命講習を行いました。

今回で7回目となる講習は消防職員が講師を務め、応急手当の目的と必要性、レザシアン人形を使った心肺蘇生法やAED（自動体外式除細動器）の操作方法などをグループに分かれて学びました。同校は、AEDの操作や心臓マッサージを生徒達に体験させ、1つでも多く命を救ってもらいたいと今後も講習を続けていく予定です。



市内全小学校にパンフレットを贈呈

市交通安全母の会連合会

道路交通法の改正によって児童・幼児の自転車乗車時にはヘルメット着用が保護者の努力義務となったことで市交通安全母の会連合会が7月8日、小学生向けのパンフレットを作成し、市内全小学校に贈呈しました。

車力小学校を訪れた母の会車力学区（学区長台丸谷幸野）の代表者ら3人は「交通安全指導に役立ててください」と小山内校長にパンフレットを手渡しました。

ヤマツツジ100本を植樹

市観光協会

観光地美化推進のため市観光協会（会長伊藤良二）は7月9日、亀ヶ岡公園で植樹祭を行いました。今回植樹したのは、ヤマツツジの苗木100本で同協会員ら約30人が丁寧に植樹しました。

伊藤会長は「亀ヶ岡公園は桜の名所としても知られており、桜の後はヤマツツジも楽しんでもらうようPRしていきたい」と話していました。同公園周辺にはベンセ湿原もあることから、春から初夏にかけては屏風山の自然を満喫することが出来ます。



街路灯を寄贈

地域社会の明るいまちづくりに貢献

東北電力㈱五所川原営業所と㈱ユアテック五所川原営業所は7月10日、市に街路灯を寄贈しました。

両営業所は昭和45年から、社会貢献活動の一環として自治体に街路灯を寄贈しています。寄贈式では、福島市長に目録が手渡され、市長は「防犯対策に役立たせていただきます」とお礼を述べました。寄贈された街路灯は、柏地区の上古川老人憩いの家駐車場に設置されます。

ジャズダンス教室

市国際交流員が指導

市民との国際交流の輪を拡げようと7月3日、10日の両日、松の館でジャズダンス教室が行われました。講師の国際交流員ベルテ・デーナさんは、アメリカで友達からジャズダンスを学び、日本に来てからも趣味として続けています。

教室には市内外からダンス愛好者が訪れ、音楽に合わせてステップするなど心地よい汗を流しながら楽しんでいました。教室は10日で終了ですが、今後はダンスサークルを立ち上げて交流したいと思っています。



第2回津軽地区小・中学校高山稲荷相撲大会

高山稲荷神社の夏季大祭に合わせて行われた第2回津軽地区小・中学校高山稲荷相撲大会が7月13日、同神社相撲場で開催されました。

大会には津軽地区一円から強豪力士が名を連ね小中学生83人が参加、日頃の練習成果を発揮し手に汗握る白熱した取組が行われました。

今大会の優勝者は、来年3月に伊勢神宮で開催される大会へ出場することになっています。



生きることへの情熱を持つ

人権教育モデル講座

開かれた社会の実現に向けて人権教育を学ばせようと市人権教育・学習推進協議会（会長工藤秀美）は7月15日、木造高校1年生240人を対象に人権教育モデル講座を開催しました。

講師には、はり・マッサージ治療院「さばりあん」院長の秋田修氏を迎え「私は眼が視えないだけ…です」と題して講演、秋田さんは「人間は気持ちの持ちようでどうにでもなる。何事も前向きな気持ちで、目標意識を持ち続けてください」と生徒たちに呼び掛けていました。



メロン・すいか直売所オープン

JA木造町

お盆・お中元・ギフト用にと利用者から好評の木造町農協「メロン・すいか直売所」がオープンし7月18日、開設セレモニーが行われました。セレモニーでは佐々木廣規組合長や農協関係者らがテープカットを行い、詰めかけた市民らは試食して味を確かめながら、好みの品を買い求めていました。

つがる市産のタカミメロンは8月1日から1カ月間、日本航空（JAL）羽田—上海虹橋（ホンチャオ）線のファーストクラスの機内食にお目見えします。



1200人が納涼楽しむ

むらおこし拠点館フラット

むらおこし拠点館活性化推進協議会（会長蝦名富治）が主催するフラット納涼祭が7月21日行われ、約1200人が訪れました。

会場では、ピダ大会、バルーンアート、大ビンゴゲーム大会など親子連れで楽しめるイベントやJA女性部によるよさこいソーランの披露が行われ、会場は盛り上がりしていました。

また、生バンド演奏が始まるとステージ前には多くの来場者が埋め尽くし、演奏に聞き入っていました。

